

## 公益社団法人へ移行



社団法人園芸いばらき振興協会は平成7年7月に設立され、園芸農業の発展に寄与する活動を行ってまいりましたが、公益法人制度改革を機に、公益社団法人への移行を決議し、平成23年5月25日に知事認定、5月30日、登記により、社団法人は解散し、公益社団法人園芸いばらき振興協会が発足しました。

また、平成23年4月1日から5月29日までをみなし事業年度とする、社団法人最後の事業報告及び収支決算報告は7月14日開催の臨時総会において承認されました。

これらにより、公益社団法人への移行手続きはすべて完了いたしました。

役職員一同、今後は公益法人として、県民及び国民の利益の増進に寄与してまいりますので、変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

### 【公益法人とは】

平成20年12月の制度改革による新しい公益法人とは、経済的な利益を追求する株式会社とは異なり、公共の利益のための活動を目的とする法人で、総理大臣や知事の認定を受けた公益社団法人と公益財団法人の総称です。

## 新会長就任のお知らせ

平成23年7月14日開催の理事会において、内田前会長に代わり県市長会会長（守谷市長）の会田真一氏が第6代会長（代表理事）に選出されました。

また、副会長には、県花き園芸協会会長の久家源一氏と、県農協中央会副会長の根本脩氏が選出されました。

新役員の内任期は、平成25年度の定時総会終結までとなります。

公益社団法人 園芸いばらき振興協会 役員名簿につきましては、協会ホームページに掲載しております。

<http://www.engei-ibaraki.or.jp/gaiyou.html> をご覧ください。



会長 会田 真一

## 茨城県における放射能被害への対応

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴い、東京電力福島第一原子力発電所で放射性物質が外部に発散・漏出するという大事故が発生しました。

このため、県内においても、ほうれんそうやパセリ、茶、原乳、牧草などで、国が定めた基準を上回る放射能が検出され、出荷が制限されたり自粛を求められる事態となりました。さらには、放射能未検出の農産物も含め、本県産農産物が買い控えられたり、価格が低下するなど、甚大な被害を被りました。

県では、東京電力に対して、これら被害を受けた農産物の損失補償を県内産地・関係機関等と連携して請求していく体制や、主要農産物・農地・肥飼料等の放射能検査を行う体制を整えるとともに、各地で販売促進イベント等を開催するなど、被害対策を行ってまいりました。当協会でも、県や産地の動きに呼応して、産地対策や、販売支援等を行ってまいりました。

### ◎事故発生後の主な動き

時期	全国での動き	県内での動き
3月11日	東北～関東沖で地震、津波の発生。 交通マヒなどで物流が停滞し、一時的に野菜値上がり。	県沿岸でも津波被害。 埋めた地等を主に、地盤液状化による被害が各地で発生。
12～15日	福島第一原発 1,3,4 号建屋が水素爆発等により破損。放射性物質拡散。	県内では 15、16 日と 21 日に高い空間放射線量を測定。
17日	厚生労働省が飲食物の放射性物質の暫定規制値を発表し各自治体へ通知。	
19～25日	福島県産原乳から暫定規制値を超える放射性物質を検出。 続いて、栃木県、群馬県、千葉県産ほうれんそう、かき菜等で規制値超過が判明。 国はそれら農作物の出荷制限を指示。	県産ほうれんそうから暫定規制値を超える放射性物質を検出。続いてパセリ、かき菜、原乳、などで規制値を超過。 県では主要農産物の放射能を順次分析し、規制値を超えた農産物は出荷停止。安全確認された農産物を中心にPRイベントを開催。 22日以降東京市場で県産農産物価格が暴落。
3月22日	東京都の上水道で規制値を上回る放射性物質を検出。特に乳幼児への影響が懸念されたが、数日で規制値を下回った。	23日には、県内水道でも放射性物質を確認。
3月23日	国は、福島県飯館村の土壌から高濃度の放射性物質を検出と報告。4月8日、水稲作の土壌暫定規制値を通知。(セシウム 5,000Bq)	4月8日、県内農地の調査結果報告。全地点で規制値を大きく下回った。
4月11日	国は、原子力損害賠償紛争審査会を文科省に設置。	12日に農畜産物損害賠償対策県協議会設置。 8月末までに 200 億円を超える賠償請求を提出
4月13日		当協会関係団体代表者会議開催。 関係団体連名での県への復興対策要請書を提出
5月16日	初旬に神奈川県産茶葉から高濃度の放射性物質が検出されたのを受けて、各県に調査を指示。6月2日には、規制値を超えた荒茶、生茶とも出荷停止を決定。	県産茶葉から規制値を超える放射性物質が検出された。価格回復の動きを見せていた東京市場での青果物の価格は、これら情報に合わせて回復が遅れたが、6月中にほぼ回復。
7月11日	汚染稲わらの流通により、それを給餌された牛肉での規制値を上回る汚染が判明。	8月1日から県産牛肉は全頭検査を決定。
7月25日	国は、稲わらや木の葉等を原料とした堆肥、厩肥の使用自粛を通知。	堆肥等の分析調査で安全が確認されたものの使用を指導。
8月～	米の安全確認調査の方法を決定	水稲での旧村単位での玄米検査を実施。

# 講演「放射能と生活環境」

茨城大学大学院 理工学研究科 高妻 孝光 教授

去る7月29日、茨城県施設園芸研究会と共催で茨城大学大学院 理工学研究科 高妻 孝光 教授による「放射線と生活環境」と題した講演会を開催しました。

3月11日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故以降、放射線への関心は非常に高く、生産者や消費者、関係機関など240名を超える参加者が集まりました。

講演会は、放射線の歴史や分類、放射線は原子核が壊れる時に放出される核分裂反応であるといった基礎的な話から始まりました。

代表的な誤解の例として、①感染症ではない ②細胞分裂のように増殖はしない ③浸透移行性はない とのことでした。

基本的な対処法は、①距離を置く（遠く離れる） ②接する時間を短くする ③遮蔽する（間に物質を置く）などです。

次にテレビなどでよく聞くベクレル（Bq）という単位。これは、放射線を出す能力を示すもので、1秒間に1個の原子が壊変して1 Bq。シーベルト（Sv）は放射線吸収計数。人体にどのくらい影響を及ぼすかを示すもので、摂取した食品のBqにより、Svに変換することも可能とのこと。（変換係数は、年齢により異なり子どもほど大きくなる）

続いて、身近な食品、特に野菜の汚染状況や、先生が自ら測定した数値を紹介、解説。海外の情勢、被曝事例等も紹介されました。

入手困難になるほど需要が高くなってしまった放射線測定器を選ぶ時のポイントの紹介もありました。

講演終了後は、来場の生産者から放射線が農作物に与える影響について専門的な質問が数多くされ、切実な現状が伝わってきました。



また消費者の女性からは、連日テレビで放送された問題になった水道水の汚染についてなど、熱心な質問が後を断たず、終了時刻を過ぎても続きました。

## 茨城県施設園芸研究会総会が開催される

去る7月29日、小美玉市 四季文化館「みの〜れ」森のホールにおいて、平成23年度茨城県施設園芸研究会通常総会を開催しました。

当研究会は県内の100名を超える施設野菜生産者(主にトマト、キュウリ、ナス)を中心に構成されており、日々、品質・生産性向上だけでなく、安全・安心な野菜の供給、消費宣伝PR等、幅広い活動を展開しています。

議事については前年度の活動実績や今年度の活動計画案が

原案どおり承認されるとともに、役員改選が行われ、青木会長、吉久保副会長、栗田副会長、中澤副会長らが留任となりました。

また、賛助会員(協賛メーカー)による商品の展示PRも行われ、13社が出展しました。

午後からは、公益社団法人 園芸いばらき振興協会と共催で茨城大学大学院 理工学研究科 高妻教授による「放射線と生活環境」と題した講演会が開かれました。



## 茨城県いちご経営研究会総会が開催される

### 平成24年度より会費徴収を決め、活動に弾み



去る8月3日、園芸研究所大会議室において県、JA等多くの関係機関、当研究会支部を取りまとめている各地域農業改良普及センターの出席のもと、平成23年度総会が開催されました。

本年度の総会には、平成24年度からの会費徴収(年会費1,000円/名)が上程可決され、当研究会の活動を大きく前進させる記念する総会でありました。

総会后開催されたパネルディスカッションでは、「茨城いちごの未来を語る」を課題に、産地振興課吉井技佐がコーディネーターとなり、パネリストは市場出荷、直売、観光農園と多彩な経営を展開する会員、水戸中央青果(株)の果実担当等が出席し、熱い語りを展開され、今後の研究会活動を示唆し茨城いちごの近未来が見えたようでした。

市場出荷、直売、観光農園と多彩な経営を展開する会員、水戸中央青果(株)の果実担当等が出席し、熱い語りを展開され、今後の研究会活動を示唆し茨城いちごの近未来が見えたようでした。

# 農産物販売PRイベント情報

3月11日の東日本大震災並びに東京電力福島第一原子力発電所事故後、風評被害払拭・安全安心PRのため、「がんばろう日本！がんばろう茨城！」を合言葉に、茨城県はもとより、関東各都県、各企業で農産物販売イベントを開催しております。

当協会としても、各品目協議会と一緒に、水戸駅や県庁などで農産物販売イベントを開催してきました。

今回、収穫の秋を迎えるにあたり、今が旬の梨・栗・さつまいもなどの秋の味覚を、下記のスケジュールのもとPR販売していきます。

お近くに立ち寄りの際は、是非、覗いてみて下さい。美味しい秋の味覚が盛りだくさんですよ！

## ☆今後の主なPRイベント

日時	場所	内容
9月16日(金) ～22日(木)  10時～18時	JR水戸駅改札前	<b>「いばらき秋の収穫祭」</b> 今が旬の梨・栗・さつまいもとブルーベリー加工品のPR販売 主催：(株)東日本リテールネット水戸支社 JR東日本水戸支社 共催：公益社団法人 園芸いばらき振興協会
10月2日(日) 11時～	カシマサッカー スタジアム	<b>鹿島アントラーズ ホームゲームにて</b> <b>「さつまいもの日10月13日」にむけたPR</b> 先着1500名に無料配布 主催：茨城県かんしょ生産者連絡協議会
10月28日(金)	東京都目黒不動尊 瀧泉寺	<b>「<sup>かんしょ</sup>甘藷まつり」に参加</b> 茨城のさつまいもをPR販売 主催：甘藷まつり実行委員会

## これまでのPRイベントのようす



春先のメロン祭り



昨年の「さつまいもの日」に向けたPR

## 平成23年度 使用済み農業用プラスチックの回収について 園芸リサイクルセンターより

園芸リサイクルセンターでは、農村環境の保全、施設園芸の健全な発展のため農家から排出される農業用使用済み塩化ビニール（農ビ）及びポリエチレン等（農ポリ）の回収及び適正な処理、再生品生産を行っています。今後も適正処理を推進してまいりますので皆様方のご支援、ご協力をお願いします。

平成23年度の回収の要点を下記の一覧表にしましたので、ご確認ください。

### < 平成23年度使用済みプラスチック回収の要点 >

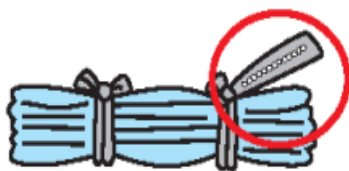
#### ◎農業用塩化ビニール(ハウス等被覆用)

〔荷造りにあたっての注意点〕

- ・よく乾燥させてできるだけ泥を落とし、作物の残さ、木片、金属片などの異物を取り除く。
- ・ヤケ等によりリサイクルできないビニールは除く。



つづら折りにする。  
幅 80~100cm、高さ 25cm



重さ 10kg 程度とし、同じ材料の  
ヒモを使い2カ所しばる。

● 梱包ごとに登録番号等を記入してください。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○  
一束ごとにヒモ端に登録番号を記入してください。

#### ◎農業用ポリエチレン等

項目	資 材 名	荷造り及び注意点等	
回 収 可	・ハウス被覆用ポリフィルム（アルミ蒸着フィルムも回収可）	農ビに同じ（上記参照）	
	・マルチフィルム（シルバーマルチも回収可）	8の字巻きは幅 80~100cm 重さ 10kg 程度 巻き取りは直径 25cm 程度とし、ポリヒモでしばる	
	・カンレイシャ ・遮光シート ・防虫・防風ネット	・不織布（パオパオ等） ・マイカー線 ・作物誘引用ネット	幅 30cm 高さ 25cm にポリヒモでしばる 又は、肥料袋に詰める
	・畦畔板（畦シート）	・果実下敷材（農ビ×）	直径 50cm 程度に巻き取る 又は、肥料袋に詰める
	・灌水、散水チューブ		幅 80cm 高さ 25 cm にポリヒモでしばる
	・水稻育苗箱	・園芸用育苗トレイ	高さ 25cm にポリヒモでしばる
	・園芸用ポット		肥料袋につめる
	・肥料袋（編物も回収可）		半分に折ってポリヒモでしばる
	・ポリコンテナ		重ねて容量を減らす
不 可	・ブルーシート ・フィルム用留め金 ・園芸用連結ポット ・農薬容器	回収いたしません	

## コギク茨城県育成品種親株の販売を始めました 園芸種苗センターより

茨城県のコギクは、県内の切り花出荷品目では第1位、全国的にも栽培面積が第2位を占める産地となっています。

園芸種苗センターでは平成22年度から3品種、平成23年度からさらに6品種、合計9品種の茨城県育成コギク品種の個人、任意組織生産者向けの親株の販売をしています。

出荷の中心となる7月、8月、9月の物日にピッタリ出荷できる茨城ブランドのオリジナル品種に取り組んでみてはいかがでしょうか。

### ○品種の特徴



常陸サマーレモン

7月出荷用のレモンイエロー系の品種です。草姿がまとまりのよい頂点咲きで、出荷作業や花束加工に適する品種です。



常陸サニーホワイト

7月東京盆の出荷向け。純白に近い白色で草姿がまとまりのよい頂点咲き品種です。



常陸サマーゴールド

8月旧盆～盆明けの出荷向け。緑色の照り葉が特長の黄色品種です。



常陸  
サニールビー

6月中下旬出荷向けで、頂点咲きの品種です。濃い赤紫色が特徴的です。



常陸  
サマースノウ

8月旧盆出荷向けの白色品種で、頂点咲きで、光沢のある照葉が特徴的です。



常陸  
サマールビー

8月旧盆出荷向けの赤紫色品種で、分枝数や花蕾数が多くボリューム感に富む頂点咲きの品種です。



常陸  
オータムホワイト



常陸  
オータムパール







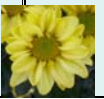
常陸  
オータムレモン

9月彼岸出荷向けの白色品種で、分枝数、花蕾数が多く、ボリューム感に富む頂点咲きの品種です。

9月彼岸出荷向けの白色品種で、切花長はやや短く、頂点咲きで締まった良好な草姿の品種です。

9月上中旬出荷向けのレモンイエロー系の黄色品種です。頂点咲きで、ボリューム感に富みます。

## ○開花期

	～6月	7月	8月	9月
赤	 常陸 サニールビー		 常陸 サマルビー	
白	 常陸 サニーホワイト	 常陸 サマースノウ	 常陸 オータムホワイト 常陸 オータムパール	
黄		 常陸 サマーレモン	 常陸 サマーゴールド	 常陸 オータムレモン

茨城県農業総合センター作成資料より

販売対象	県内にお住まいの個人生産者、任意組織生産者 制約事項に同意、履行していただける方が条件となります。
販売規格	開花後地上部を切除した根株(掘り上げ株)
販売単位	5株1口
価格	1口 8,400円(税込) *生産、販売に関する許諾料を含みます。
注文締切日	平成23年9月30日

なお、数量に限りがあるためご注文に応じることができない場合があります。ご了承ください。  
詳しくは、園芸種苗センターまでお問い合わせください。

編集・発行

## 公益社団法人 園芸いばらき振興協会

〒311-4203 水戸市上国井町3340番地

TEL: 029-222-8511 FAX: 029-222-8513

ホームページ: <http://www.engei-ibaraki.or.jp/> E-mail: srs@engei-ibaraki.or.jp

### ●園芸リサイクルセンター

〒31-3137 東茨城郡茨城町網掛 1154 番地  
TEL: 029-293-6800 FAX: 029-293-6860

### ●園芸種苗センター

〒311-4203 水戸市上国井町 3118 番地 2  
TEL: 029-239-7600 FAX: 029-239-7601